

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-3-1 医療機能の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 健康推進課がん対策推進室長 半場 祐子 電話番号 0852-22-6963

事務事業の名称	緩和ケアの推進	
目的	(1) 対象	治療が困難な病気にかかった患者と家族及び一般県民
	(2) 意図	医療環境を充実するとともに緩和ケアそのものについて普及啓発を図る。
事業概要	①緩和ケア総合推進委員会：緩和ケアの啓発・研修・実践の推進策の検討。 ②緩和ケア地域ネットワーク事業：関係者によるネットワーク構築のため、圏域の医療機関やケア関係機関と情報共有・検討を行う。 ③人材育成事業：緩和ケアを支える医師・看護師を育てるために、外部講師による研修等を行う。 ④在宅緩和医療促進事業：拠点薬局がPCAポンプを購入する際の経費の一部助成	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	緩和ケアの基本的技術を習得した医師数	403.00	509.00	610.00	
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
式・定義	達成率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
式・定義	達成率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,282	3,983
うち一般財源(千円)	642	2,284

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

- すべてのがん診療連携病院において、医師向けの緩和ケア研修会を開催した。また、在宅で緩和ケアを受けることができる体制づくりには、かかりつけ医に緩和ケアに対する理解を深めていただく必要があることから、県医師会主催の緩和ケア研修会を開催した。その結果、緩和ケアの基本的技術を習得した医師数については、H25年度に比べ109人が増加し719人となった（達成率：102.8%）。
- 緩和ケア研修会の参加者の多くはがん診療連携拠点病院の医師であり、緩和ケアを地域で支えるかかりつけ医の参加は未だ少ない状況。
- すべての圏域で、保健所が中心となって緩和ケアネットワーク会議を開催した。
- H26年度に、県のPCAポンプ助成制度を活用して、拠点薬局でPCAポンプが5台購入された。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

患者の身体的・精神的な苦痛の緩和について、基本的技術を習得した医師数が増え、緩和ケア提供体制の推進につながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- かかりつけ医の緩和ケアに対する関心が高まっていない。
- がん患者（県民）の緩和ケアに対する正しい理解が進んでいない。

②困っている状況が発生している「原因」

- かかりつけ医の緩和ケア研修会への参加者が少なく、情報が不十分。
- がん患者（県民）が、緩和ケアの正しい情報を入手する機会が少ない。

③原因を解消するための「課題」

- 緩和ケア研修会にかかりつけ医が参加しやすい環境づくりの検討
- 受診医療機関で緩和ケアに関する情報を提供する体制が不十分
- がん患者（県民）に対する緩和ケアの啓発が不十分

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 緩和ケア研修委員会において、かかりつけ医の受講を進める具体的な方策について議論し、医師会等と協力して受講率向上を目指す。
- 緩和ケアに関する情報を提供できる医療機関の体制強化や、県民を対象とした正しい知識の普及。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）